

ハートで語ろう！ふらっとミーティング対話記録

日時 平成21年12月22日 19時～

会場 原谷公民館

1 出席者

市民120人、市長、副市長、教育長、市長室長、総務部長、財務部長、健康福祉部参事、環境農林部長、地域整備部長、水道部長、すぐやる担当、事務局

2 事前質問回答要旨

Q：バイオマス発電設備を再開したが、赤字解消の見込みがあるのか。

A：5月に設備の稼働を停止し、今後の方向性を数か月にわたり検討しました。設備を廃止すると、約1億円の補助金を返還する必要があり、市の基金や県のふるさと雇用再生基金を活用することで運営費用を捻出し、コストを削減しながら再始動することになりました。なお、平成24年度には施設を民間等へ譲渡する方針です。

Q：原谷小交差点から上黒谷へ通ずる市道の拡幅工事が中断された状態が何年も過ぎたが、その後の予定はどうなっているのか。

A：今後、地元町会と協議しながら、地権者のご協力が得られるよう交渉を進めます。

Q：防災無線の音声は、サンヒルズではまったく聞き取れない。再三、設置の要望を出しても一向に改善されないがどうなっているのか。

A：子局からの無線放送は、条件によっては聞き取れないことがあります。専門業者に調査を依頼し、もっとも効果的な方法で解決したいと思いますので、以前からお話しているとおり、個人ではなく町会から要望する形で、要望書を市に提出してください。

Q：原谷公民館のクラブ講座に、「着物着付け教室」を開講してもらいたいがどうか。

A：受講希望の動向を調査し、平成22年度の短期講座として原谷公民館で実施できるか検討します。

3 対話記録要旨

Q：原谷小交差点から上黒谷へ通ずる市道の未拡張部分は、通学路にも利用されている。柵の設置など安全対策を実施できないか。

A：12月24日に現地を調査し、対策を検討します。

Q：防災無線の音声は室内では聞きづらいので、周辺の町のように各家庭に受信機を設置してもらえないか。

A：現在の設備に対応する個別受信機は、製造終了となっています。また1個あたり4万円と高価なことから、現状の予算状況では対応できません。防災無線のデジタル化と合わせ、ミニFM放送での発信を含めて、今後の方策を検討しています。

Q：視目坂下にある交差点付近は、西小や秩一中の通学路となっているが、歩道がない部分は農地を通過して登校している。危険であるので、対策を講じてほしい。

A：月1回程度交渉に行っていますが、用地取得については地権者のご協力が得られていません。現在、地権者のご厚意で畑を通学路として利用させてもらっています。今後も、用地交渉を続けていきます。

Q：建設工事等で、予算額と入札額に生じた残余金はどうなるのか。

A：原則として翌年度への剰余金とします。余った予算を使い切るようなことはしていません。

Q：地すべり対策を続けている滝沢ダムは、国からの固定資産税が市に入金しているのか。

A：ダムの本体工事は完了していますので、今年度から納めてもらっています。

Q：136年の伝統がある秩一小は、1学年から3学年までが各1クラスで、4学年以上は各2クラスとなっていて、児童数が年々減少している。今後、統合により閉鎖されることはないか。

A：万一、小学校の児童数が減少することで集団教育が実施できなくなっても、近くの小学校と連携して存続させる手段も考えられますが、伝統校の秩一小を整理統合する考えは今のところありません。

Q：原谷小体育館を会場とするようになって、原谷公民館の文化祭が2日間から1日半に短縮した。2日間展示ができるよう、学校側に要請できないか。

A：持ち帰り、小学校と協議します。

Q：地域振興事業補助制度を町会で利用している。上限額を下げてでも制度を継続できないか。

A：厳しい財政状況ですが、制度の継続に向け予算要望していきます。

Q：バス利用の団体が、荒川の河川敷に化石を採りに来る。トイレがないために、蓼沼西区公会堂のトイレを貸しているが、荒川へ下りる入口にトイレの設置はできないか。

A：総体的に検討しますので、町会として要望書を提出してください。

Q：大滝温泉の利用促進のために無料バスを出したり、こうした施設では、山梨産のものを使用しないこととすべきなのでは。

A：検討してみます。

Q：秩父市では、若者が働ける雇用の確保が必要なのでは。

A：雇用の場の確保が重要なことは、よく理解しています。産学官が連携して、企業誘致を行っていきます。少しでも秩父市に興味を示す企業があれば、直接市長が折衝に出かけます。

Q：職員駐車場には、無料で駐車させているのか。

A：駐車場利用料は、月4000円です。

Q：市立病院に乳がんの検査装置を入れるのであれば、治療までできるように職員の体制も確立してほしい。

A：マンモグラフィーが導入できれば、院内の外科医が乳がんの診察・治療をすることができますので、埼玉医科大学病院に患者さんを送らずに対応できます。